

28年1月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年 1月1日～ 28年1月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		28/1月	2月	3月
伐採動向	スギ	0.0	0.0	△ 16.7
	ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 37.5
	カラマツ	△ 12.5	△ 12.5	△ 37.5
	エゾ・トド	△ 12.5	△ 25.0	△ 37.5
出荷・販売動向	スギ	0.0	0.0	8.3
	ヒノキ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 25.0	△ 37.5	△ 37.5
	エゾ・トド	△ 12.5	△ 25.0	△ 12.5
手持立木在庫動向	スギ	△ 16.7	△ 33.3	0.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 62.5	△ 62.5	△ 62.5

・スギの伐採は1月、2月の横ばいが、3月は減少。ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドは3ヵ月連続して減少。

・スギ素材の出荷は1月、2月の横ばいが、3月はやや増加。ヒノキは1月の横ばいが、2月、3月は減少。カラマツ及び、エゾ・トドは3ヵ月連続して減少。

・スギ立木の在庫は1月、2月の減少が、3月は増加。ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドは3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

・国有林立木販売箇所のトドマツ間伐を実行しているが、冬山造材の最盛期を向かえ伐採は順調（北海道）。
・27年度事業終了し、切捨て間伐のみ、新年度受注まで伐採はない（中部）。

(出材・販売動向)

・国有林素材のシステム販売や素材の公売はカラマツが多く、トドマツは一般材・合板材・原料材全て順調に販売している（北海道）。
・出材の調整は多少あり（北海道）。
・調整なし（東北）。

(手持ち立木在庫)

・素材生産を実行するごとに立木在庫は減少しているが、手持ち立木があるので適宜国有林立木販売物件を購入する予定（北海道）。